

特別支援教育

「気づきのためのチェックリスト」(改訂版)の活用効果の検証

特別支援教育課 課長 島野 絵理子
指導主事 越膳 一也(執筆責任者), 成田 章,
齊藤 光子, 千葉 新一, 西村 美貴

要 旨

平成19年度に作成した「気づきのためのチェックリスト(小・中学生用, 高校生用)」について, 利用する教員等がより有効に活用できるようプログラムを見直し, これまでは作成されていなかった高校生用の支援例を作成した。改訂した「気づきのためのチェックリスト」の活用状況等について, 申込みのあった学校にアンケート調査を行ったところ, 対象児童生徒の実態の捉えや教員の意識の変容等に一定の効果があることが推察された。

キーワード: 気づきのためのチェックリスト 特別な教育的支援 支援例

主題設定の理由

「気づきのためのチェックリスト」(以下, チェックリスト)は, 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒に関わる教員等が, その実態に気づき, 支援や指導の参考にすることを目的とし, 平成19年度に幼児用, 小・中学生用, 高校生用の3種類作成されている。作成から8年以上経過しているが, 毎年一定数の利用申込みがある。しかし, 質問項目や支援例の文章表現が分かりにくい部分がある, 特別な教育的支援が必要であると判定されない限り支援例が見られない, 高校生用の支援例が作成されていないなどの課題が見えてきた。今後, インクルーシブ教育システム構築に向けて通常の学級等で特別支援教育を更に推進していくために, 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の実態に気づき, 支援や指導の参考にするためのツールの一つとして, このチェックリストをより多くの教員等に活用してもらいたい。そのためには, より分かりやすく, 使いやすいものであることが大切である。

そこで本研究では, 小・中学生用と高校生用のチェックリストについて, 質問項目や支援例の見直し, 高校生用支援例作成等のプログラムの見直しを行うとともに, 改訂したチェックリストの活用効果をアンケート調査により分析することにした。

研究目標

改訂した「気づきのためのチェックリスト」が, 特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関わる教員にとって, よりよい支援を考えていくための参考となることができる。

研究方法

1 チェックリストの質問項目等の見直し

平成19年度版のチェックリストは, 「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する実態調査(平成14年 文部科学省)」の項目を参考に作成している。作成から8年以上経過しているため, 質問項目の文章表現が難しかったり, 意味が捉えにくかったりするところが見られ, 支援例については, 表記の揺れや時代に合わない内容が見られた。そこで, 質問項目の文章表現や支援例の見直しを行う。

2 高校生用の支援例の作成

近年, 高等学校でも特別な教育的支援を必要とする生徒への支援のニーズが高まっている。しかし, 従

来の高校生用のチェックリストは、質問に答え、支援が必要な領域があったとしても、それに対する支援例が提示されないため、支援を検討する際の参考にならなかった。そこで、小・中学生用の支援例を参考にし、高校生用の支援例を作成する。

3 プログラムの見直し

従来の小・中学生用のチェックリストは、質問に答え、該当率が基準より高い領域があると支援例が表示されるが、基準以下の領域については、支援例が表示されないようになっている。そこで、他の領域の支援例も参考にできるように、全ての領域の支援例が表示されるようにプログラムを変更する。

4 改訂したチェックリストの提供

改訂したチェックリストの提供は、平成28年4月から開始した。県総合学校教育センターWeb内の特別支援教育課のページに新しいリーフレットを掲載するとともに、各種会議や研修講座、学校等支援講師派遣事業等で紹介する。

また、申込み方法についても簡略化し、所属長の許可の承諾確認が取れば、申込み担当からの電子メールやFAXでの申込みで対応できるようにする。

5 チェックリストの活用についてのアンケート調査

チェックリストの活用状況や参考度、児童生徒や教員の変容等を調査するために、平成28年4月から12月9日までに申込みのあった学校にアンケート調査を行った。調査内容は図1のとおりである。アンケート回収後、単純集計し、チェックリストの活用状況や参考度、対象となる児童生徒や教員の対応等の変容について分析する。

気づきのためのチェックリスト活用に関するアンケート	
青森県総合学校教育センター 特別支援教育課	
I 本チェックリストの使用状況について	
1 使用した	回答 <input type="text"/>
2 使用していない ※2を選択した方は、Ⅷへ	<input type="text"/>
II Iで「1 使用した」と回答した方にお聞きます。何人の児童生徒に使用しましたか？	
1 1～3名	
2 4～6名	回答 <input type="text"/>
3 7～9名	
4 10名以上	
III 本チェックリストを使用した児童生徒について	
1 気になる児童生徒数名に使用した	
2 気になる児童生徒全員に使用した	回答 <input type="text"/>
3 特定の集団(学級、学年等)全員に使用した	
4 校内の全児童生徒に使用した	
IV 本チェックリストの結果は、児童生徒の支援を考える上で参考になりましたか？	
1 かなり参考になった	
2 やや参考になった	回答 <input type="text"/>
3 あまり参考にならなかった	
4 参考にならなかった	
V 「支援例」の内容は参考になりましたか？	
1 かなり参考になった	
2 やや参考になった	回答 <input type="text"/>
3 あまり参考にならなかった	
4 参考にならなかった	
VI 本チェックリストの使用により、先生方の児童生徒への対応等に変容が見られましたか？	
1 かなり変容が見られた	
2 やや変容が見られた	回答 <input type="text"/>
3 あまり変容が見られない	
4 変容が見られない	
VII 本チェックリストの使用により、児童生徒に変容が見られましたか？	
1 かなり変容が見られた	
2 やや変容が見られた	回答 <input type="text"/>
3 あまり変容が見られない	
4 変容が見られない	
VIII その他、本チェックリストに関しての御意見や御感想がありましたらご記入下さい。	<input type="text"/>

図1 気づきのためのチェックリスト活用に関するアンケート

研究の実際とその考察

1 チェックリストの質問項目等の見直し

(1) 質問項目の見直し

質問項目の文章表現等の見直しについては、「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査（平成24年 文部科学省）」の項目を参考にした。小・中学生用のチェックリストの質問項目（聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する、不注意、多動性・衝動性、対人関係やこだわりの9領域、全75項目）を一つずつ確認し、分かりにくいと思われる表現を洗い出し、文意が変わらない範囲で見直した（図2）。



図2 質問項目の見直し（小・中学生用）

また、見直した小・中学生用の質問項目を基に、高校生用の質問項目（小・中学生用と同じ9領域、全81項目）を見直す作業を行った（図3）。簡潔な表現となるよう、文章表現を工夫した。

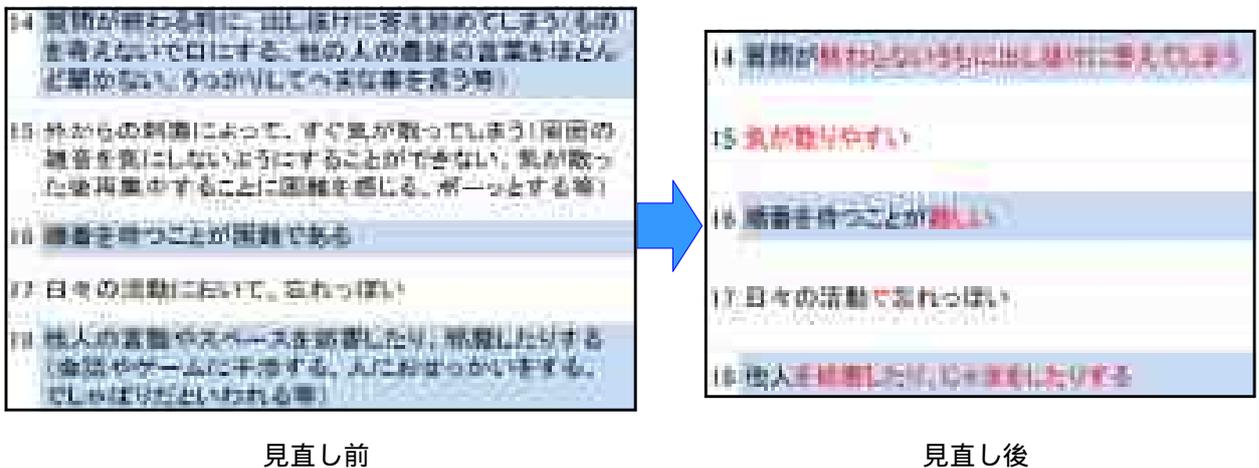


図3 質問項目の見直し（高校生用）

(2) 小・中学生用の支援例の見直しと高校生用の支援例の作成

小・中学生用の支援例の文章表現や内容の見直し・整理、表記の揺れの修正等を行った。複数の領域に共通する支援例の表記を統一したり、時代に合わせた表記（例「カセットテープ」を「ICレコーダー」）にしたりするなど検討を重ね、作成した（図4）。

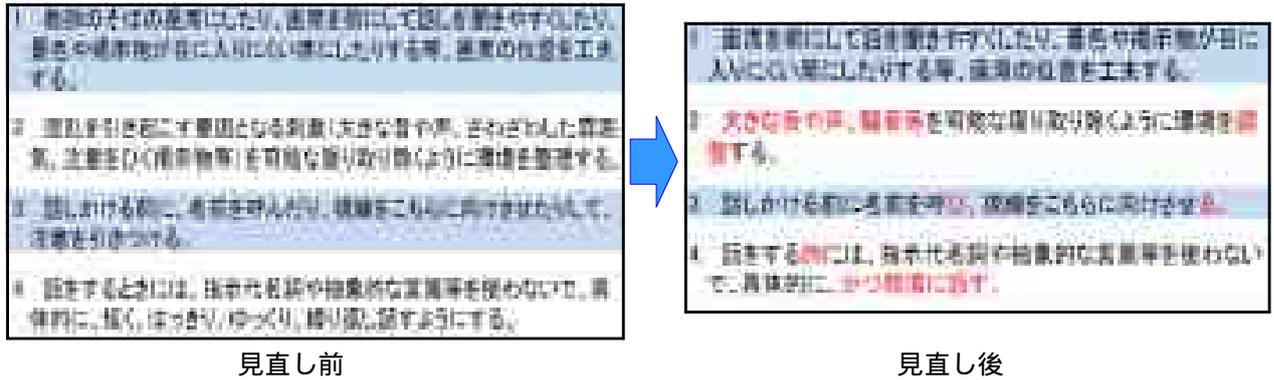


図4 支援例の見直し

また、見直した小・中学生用の支援例を基に、高校生用の支援例を作成した。基本的な支援方法は、小・中学生用と共通する部分が大半であるため、表現を高校生向けに変えたり(例「子ども」を「生徒」)、支援方法が高校生に合うように加除修正したりした。

(3) プログラムの見直し

従来の小・中学生用のチェックリストは、質問に答え、該当率が基準より高い領域があると、支援例が表示されたが、基準以下の領域については、支援例が表示されなかった。しかし、該当率が基準以下だが比較的高い場合など、他の領域の支援例も参考にし、何らかの支援を考えていきたい、ということも想定されたため、プログラムを再構築し、全ての領域の支援例が表示されるように変更することにした。

プログラムの見直しは、以前のチェックリスト作成者の協力を得ながら行った。従来のチェックリストは、特殊なソフトを使用してプログラム化されていたため、Microsoft社のExcelのみで対応できるようにプログラムを再構築し、その方法をマニュアル化した。これに伴い、新たに構築したチェックリストに不具合がないよう、様々なケースを想定して複数の指導主事で試行し、確認しながら再構築した。

2 チェックリスト実施状況等のアンケート調査結果

平成28年4月1日から12月9日までに申込みのあった小学校32校、中学校15校、高等学校8校、中学・高等学校1校の合わせて56校に、チェックリストの送付と合わせてアンケートの回答を依頼した。回答数は小学校18校、中学校13校、高等学校6校、中学・高等学校1校の合わせて38校であった(回収率67.86%)。

(1) チェックリストの使用状況

回答のあった学校のうち、実際に使用したのが84%、使用していないのが16%であった(図5-a)。使用していない理由として、「困難さを感じている生徒に対して迅速に対応、支援できるよう、環境を整えるため」「次年度の特別支援を充実させるため」「支援例を参考にするため」「職員研修で使用した」といった回答があった。

実際に使用した学校では、気になる児童生徒数名に使用したと回答したのが91%であった(図5-b)。また、使用した児童生徒の人数については、1~3名が53%と最も多く、次いで4~6名が31%、7~9名が13%であった(図5-c)。

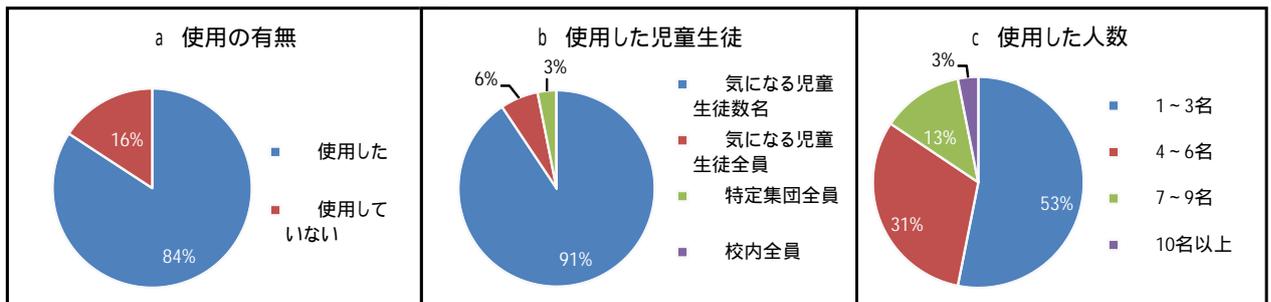


図5 チェックリストの使用状況

(2) チェックリストの参考度

チェックリストを使用した全ての学校で、チェックリストの結果が児童生徒の支援を考える上で「かなり参考になった」「やや参考になった」という回答だった(図6-a)。

また、チェックリストの支援例についても、全ての学校で「かなり参考になった」「やや参考になった」という回答だった(図6-b)。

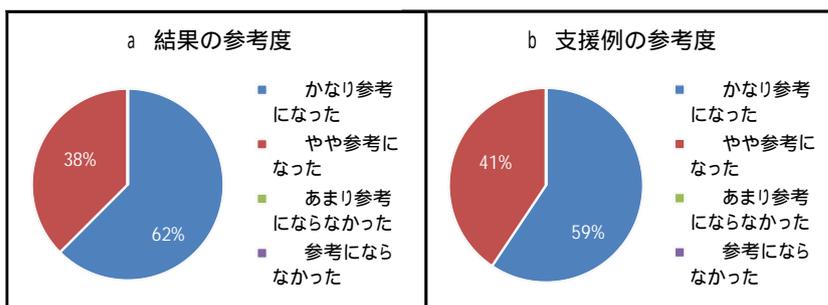


図6 チェックリストの参考度

(3) 教員の対応等の変容

チェックリストを活用したことで、対象となる児童生徒に関わる教員の対応等が「かなり変容が見られた」「やや変容が見られた」という回答を合わせると97%であった(図7)。これらに回答した学校から、「こちらの指導や児童に対して気づく点が多々あった」「指導方法を見直すと同時に新たなアプローチを選択することができ、教師としての指導の幅が持てた」「生徒への共通理解が深まった」「各教科の先生方に支援の協力を依頼しやすかった」「関係者に日頃の観察にも生かしてもらっている」などの記述が寄せられた。また、「あまり変容が見られない」と回答した学校についても、「長期休業を挟んだため明らかな生徒の変容や教師の対応等の変容は見られないが、生徒理解を深めることができ、継続して取り組んでいくことで変容が見られてくるものとする」という肯定的な記述が寄せられた。これらの調査結果から、チェックリストの活用が、教員の対応や意識の変容につながっていることが推察される。

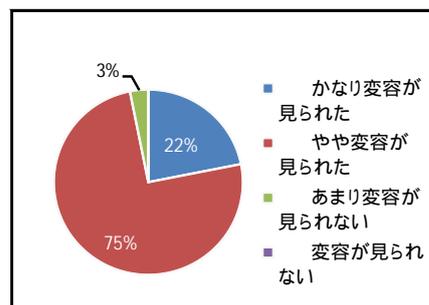


図7 教員の対応等の変容

(4) 児童生徒の変容

チェックリストを活用したことで、対象となる児童生徒が「かなり変容が見られた」「やや変容が見られた」という回答を合わせると69%であった(図8)。これらに回答した学校から、「支援例を活用し、指導に役立てることができた」「支援例を参考にした学習課題を設定し、個別指導を行っている」などの記述が寄せられ、チェックリストの結果や支援例を参考にして、実際に支援を行っている多くの学校では、児童生徒が変容してきていることを実感できていることが推察される。

「あまり変容が見られない」と回答した学校が31%あった。ある高等学校からは、「支援例を参考に支援を検討して取り組んでいるが、なかなか変容が見られない。幼少期からの支援の大切さを感じている」という記述が寄せられ、高等学校段階の支援の難しさがうかがわれた。また、「生徒への共通理解が深まり、詳しい支援内容など参考になったが、具体的にどんな手立てをしようという話を提案するところまでいっていない」という記述もあり、現段階ではまだ支援を行っていないが、今後具体的な支援を検討し、実践していくと思われる学校もあった。

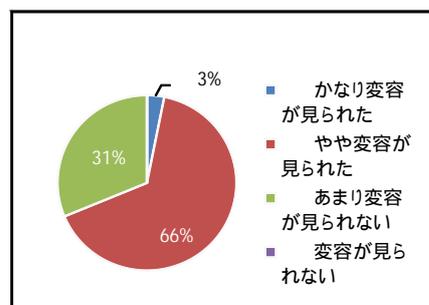


図8 児童生徒の変容

(5) チェックリスト全般に関して

おおむね肯定的な記述が多かったが、チェックリストについていくつかの意見をいただいた。

- ・具体例を画像やイラスト等で見ることができるとありがたい。
- ・個人情報の関係上仕方がないことなのですが、チェックリストを他の先生方に気軽に勧めるというわけにいかず、実施人数に限られた。
- ・項目がすごく多いので、気になる部分のみ、限定的に使えと良い。
- ・支援例がもっとあれば助かる。

- ・小学校1年生の1学期に使用したが，入学したばかりの児童には当てはまらないところもあると感じた。
- ・活用についてのマニュアルがもう少しあるとより使いやすい。(一人の生徒について複数の教員が答える際の使用法，結果を持ち寄っての事例検討の方法等)

研究のまとめ

平成19年度に当課で作成したチェックリストを利用する教員等が，より有効に活用できるよう，小・中学生用と高校生用について，質問項目や支援例の見直し，高校生用の支援例の作成，プログラムの見直しを行った。また，この改訂したチェックリストの新しいリーフレットを作成し，県総合学校教育センターWebの当課のページに掲載するとともに，各種会議や研修講座，学校等支援講師派遣事業等で紹介した。申込み方法を簡略化し，平成28年4月から提供を開始した。

チェックリストの活用状況や参考度，児童生徒や教員の変容度等を検証するために，平成28年4月1日から12月9日までに申込みのあった学校にアンケート調査を行ったところ，チェックリストの結果や支援例が全ての学校で参考になったと回答し，教員の対応等に変容が見られたと回答した割合も高かった。児童生徒の変容については，約7割の学校で変容が見られたと回答したが，約3割の学校ではあまり変容が見られないと回答した。しかし，あまり変容が見られないと回答した学校の記述から，チェックリストを参考に支援に取り組んでいる，結果を基に具体的な支援を検討する，といった肯定的な姿勢であることがうかがわれた。これらのことから，チェックリストの活用は，特別な教育的支援を必要とする児童生徒の実態のとらえや教員の意識の変容等に一定の効果があったことが推察された。

研究の課題

小・中学生用と高校生用のチェックリストを改訂したことで従前より活用しやすくなり，特別な教育的支援を必要とする児童生徒の実態把握や支援を考える上で役立つものであるとともに，その児童生徒に関わる教員の意識や対応等の変容につながるものであることが推察された。しかし，今回のアンケート調査は，回答した担当者の主観によるものであり，実際に学校でチェックリストがどのように活用され，支援がなされているのか，具体的な効果まで把握することはできていない。また，支援例に関することや活用方法についての要望がいくつか寄せられている。チェックリストをより有効に活用してもらえよう，提供するだけでなく，活用事例の紹介やフォローアップについても検討することが必要である。

<参考文献>

- 1 文部科学省 2002 『通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する実態調査』
- 2 文部科学省 2012 『通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査』

<商標> Excelは，マイクロソフトコーポレーションの登録商標である。